

平成29年度

新宿区協働事業評価報告書

(実施1年目)

(協働事業提案実施事業)

新宿区協働事業評価会

「平成29年度 新宿区協働事業評価報告書」

目次

	新宿区協働事業提案制度による協働事業の評価を終えて・・・・・・・・・・	2
1	協働事業評価の概要・・・・・・・・・・	3
2	評価の目的・・・・・・・・・・	3
3	評価の手法・・・・・・・・・・	4
4	評価の対象・・・・・・・・・・	6
5	協働事業評価実施事業・・・・・・・・・・	7
6	協働事業の評価結果・・・・・・・・・・ ～ 地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト ～	9
	【参考資料】 ・・・・・・・・・・	14
1	協働事業事前確認書（様式）・・・・・・・・・・	15
2	協働事業自己点検シート（様式）・・・・・・・・・・	16
3	協働事業相互検証シート（様式）・・・・・・・・・・	19
4	ヒアリング時提出資料・・・・・・・・・・	21

平成30年1月26日

新宿区長 吉住 健一 様

平成29年度実施の協働事業提案制度による協働事業について
次のとおり評価しましたので、報告します。

新宿区協働事業評価会 会長 久塚 純一

協働事業評価会委員

	委員の区分	氏 名	職 名
1	学識経験者	会 長 久塚 純一	早稲田大学社会科学総合学院教授
2	非営利活動団体 構成員	副会長 宇都木 法男	一般社団法人 ユニバーサル志縁社会創造センター 理事
3		関口 宏聡	認定特定非営利活動法人 シーズ・市民活動を支える制度を つくる会 代表理事
4	区 民	衣川 信子	公 募 区 民
5		竹井 陽一	公 募 区 民
6		及川 由美子	公 募 区 民
7	区内事業所の 社会貢献部門 経験者	伊藤 清和	元富士ゼロックス東京（株） CSR部社会貢献推進グループ
8	新宿区社会福祉 協議会職員	吉村 晴美	新宿区社会福祉協議会事務局次長
9	区 職 員	平井 光雄	総合政策部長
10		加賀美 秋彦	地域振興部長
11		高橋 郁美	健康部長 (事業担当部長)

新宿区協働事業提案制度による協働事業の評価を終えて

新宿区協働支援会議では平成18年3月に「協働事業提案制度の導入について」・「協働事業評価制度の導入について」の2つの報告書を取りまとめ、新宿区長に提出しました。協働事業提案制度は、この報告を受け、平成18年度から導入されたものです。

新宿区は、基本構想・総合計画でめざすまちの姿として『新宿力』で創造する、やすらぎとにぎわいのまち」を掲げ、まちづくりの6つの基本目標の一つとして、「区民が自治の主演として、考え、行動していけるまち」、また、区政運営の6つの基本姿勢として、「区民起点の区政運営」・「地域力を高める区政運営」・「参画と協働を基本に区民の知恵と力を活かす区政運営」等を計画に定めています。協働事業提案制度は、こうしたまちづくりの基本目標等を達成するための具体的な取組みの一つであり、基本構想に掲げる「新宿力」を形づくる一つの手法として「地域の力」と「多様性」を活かす仕組みとなるものです。

協働事業提案制度が推進されることで、多様な主体が担い手となり地域を支える「よりよい地域社会」が形成されると考えます。また、区民が様々な分野で参画する地域社会づくりを進めていくためには、「NPO等と区が実施する協働事業によって地域社会にどのような変化が表れるのか」、「区民の生活の課題がどのように解決されていくのか」を区民に示していくことが必要です。さらに、事業の計画段階から効果測定に至るまで、それぞれのステージで客観的に評価を行い、事業実施に反映し、改善に繋げていくことが大切です。

評価については、平成24年度に実施した協働事業提案制度の見直しにより、評価委員の拡大、評価委員による視察の導入、評価内容の変更等を行いました。特に、評価内容の変更については、事業実施1年目は協働の視点により評価を行い、事業実施2年目・3年目は、協働の視点に加え、「地域課題の解決」・「具体的な成果・効果」・「区民・地域社会への波及効果」の視点で評価を行うこととしました。

このような基本認識の下、事業実施1年目の協働事業を対象に、「計画」・「実施」・「反省と改善」の3項目について評価を実施しました。

事業開始直後ですが、高齢者が集う会合に出張する等、地域に根差した活動が展開されており、団体と事業課の熱意を感じる実施内容となっています。この事業は、誤嚥に不安のある高齢者やその家族にとって、非常に期待が高い事業です。区民への普及啓発に向けた今後の更なる活動に期待しています。

今後も、区民の参画や地域との連携の下、協働のまちづくりが促進され、地域課題の解決が図られ、多様な人々にとって新宿区がさらに暮らしやすいまちとなることを期待します。

本報告書は、新宿区協働事業提案制度実施要綱第11条第2項に基づき、新宿区長に報告いたします。

新宿区協働事業評価会
会長 久塚 純一

1 協働事業評価の概要

新宿区では、各主管課において多様な主体と様々な協働事業が進められており、平成29年度の協働事業進捗調査では、264に及ぶ事業が様々な協働形態で行われています。その中で、協働事業提案制度により平成29年度から実施されている「地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト」について1年目の評価を実施しました。

事業の評価については、平成16年に策定した「地域との協働推進計画」が基本目標として掲げる「多様で新たな区民ニーズへの対応」や「区民の参画意識と主体的な区民活動の促進」、「行政の体質改善」に結びつく取組みになっているのか、また、「相互理解」、「自主・自立性」、「対等の関係」等、6つの「協働の基本原則」を十分踏まえ、事業の目標等が達成できたかといった点から評価を行いました。

協働の中身・質を高め、事業の目標や意図する成果を達成していくためには、協働の当事者が、互いにプロセスや成果を確かめ、議論し合い、相互検証を行うといった、一つひとつの経験を積み重ねていくことが大切です。そして、「計画」・「実施」・「反省と改善」といった各事業の場面における評価基準を定め、客観的にその取組みの評価を行い、実施の場面で改善に繋げていくことが必要です。

そのため、評価にあたっては、事業実施団体と区担当課が、協働事業の開始時に「事前確認書」を作成し、事業の目的や目標、想定する成果等を共有した内容の確認を行い、協働事業の実施中に「協働事業自己点検シート」・「協働事業相互検証シート」を作成し、事業の振り返りのために自己点検及び相互検証を行いました。

これらの資料を基に、協働事業評価会が事業実施団体と区担当課へのヒアリングを行い、第三者評価を実施しました。

事業の評価結果については、9頁以降に記載のとおりです。

2 評価の目的

協働事業の評価は、協働の意義を明確にするとともに、それぞれの事業の意図する成果の達成状況を明らかにすることを目的として行います。

〈協働の意義〉

- ① 区民生活にとって効果的な事業を実施すること
- ② 協働を進めるNPO等と区が相互理解を進め、対等な関係を築いていくこと
- ③ 区民の主体的な活動を推進しコミュニティの形成につなげていくこと
- ④ 前例の踏襲や組織の縦割りの弊害など、これまでの区の仕事の内容や進め方を見直す契機とすること
- ⑤ 様々な主体の自立性を高め役割分担を明確にしていくこと
- ⑥ 協働事業を発展させ、住民福祉の維持向上と住民自治を推進していくこと
- ⑦ 区民ニーズに基づく予算化の優先順位をつけるための判断基準の一つにすること

3 評価の手法

(1) 評価の流れ

事業実施団体と区担当課が作成した「事前確認書」を基本に、それぞれ「自己点検シート」の記入を行い、双方の協力の下、「相互検証シート」を作成します。また、評価時点までの事業の実施概要の提出を求めるほか、受益者からの評価はアンケート等で把握します。

さらに、協働事業評価会委員による事業視察を行い、事業の進捗状況等についても確認を行います。

これらを実評価資料として、協働事業評価会が両者にヒアリングを行い、評価を実施します。

(2) 評価の項目

1年目の評価については、「計画」・「実施」・「反省と改善」の事業プロセスごとに評価を行うとともに、総合評価を実施します。事業プロセスごとの評価は、主に次の着眼点によって実施します。

(3) 評価の公開

評価結果については、ホームページ等により、広く区民等に公開し、事業の透明性を図り、更なる協働の推進に結びつけていきます。事業実施団体と区担当課は、評価の結果により、課題が明らかになった場合には、双方の活動や事業の実施に反映していくことが必要です。

■協働事業の評価にあたっての主な着眼点(1年目)

協働事業評価項目		評価にあたっての主な着眼点
④優れている ③適切である ②課題はあるが、ほぼ適切である ①不十分であり改善が必要 ○その他		※評価は、協働することの意義を明確にするとともに、それぞれの事業の意図する成果の達成状況を明らかにすることを目的に、事業実施者(事業実施団体と区の事業担当課)へのヒアリングにより行います。
計 画	1 事業における区民ニーズや課題のとらえ方	地域ニーズや課題の共通認識での把握
	2 事業の成果目標の設定	成果目標の明確化と共有、達成度を把握可能な成果目標の設定、費用対効果からみた事業計画の妥当性
	3 協働の相手への期待とその成果	協働の相手方との問題意識の一致、対等なパートナーシップの確立、協働による相乗効果の把握と認識の一致
	4 役割分担の決定方法	十分な意見交換のうえでの、協働を有効に機能させるための役割・責任の分担の明確化
実 施	5 事業の進捗状況や事業に関する情報の共有	事業の進捗状況の確認や意見交換の実施、必要に応じた協議のうえでの事業の進め方の軌道修正
	6 協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い	目標達成に向けた取り組み状況の共有と検討、必要に応じた協議のうえでの目標達成のための手段の見直しの実施
反 省 と 改 善	7 改善すべき内容の把握	改善方法の検討と共通理解、今後の事業展開に関する方向性の認識の一致

4 評価の対象

(1) 評価対象団体等

- ① 協働事業提案制度による事業実施団体(特定非営利活動法人、市民活動団体・ボランティア団体などの社会貢献活動団体。)
- ② 区の事業担当課

(2) 評価対象事業

協働事業提案制度による29年度実施の1事業
(平成28年度に採択した実施1年目の1事業)

(3) 評価対象期間

平成29年4月～9月
(平成29年度事業計画・9月末までの実施状況)

(4) 評価の実施経過

平成29年 9月	事業実施団体と区に自己点検・相互検証シート作成依頼 事業実施団体と区がそれぞれに自己点検を実施
9月10日	協働事業評価視察会(於:榎町地域センター) ○「ほっとサロンえのき」での普及啓発活動
9月11日	事業実施団体と区が自己点検の結果をもとに意見交換し、相互 検証を実施
10月13日	第4回協働事業評価会 ◆ヒアリング 28年度採択1事業
11月10日	第5回協働事業評価会 ◆評価内容の調整・審議 ◆評価書作成
12月15日	第6回協働事業評価会 ◆評価結果のまとめ

5 協働事業評価実施事業

【平成 28 年度に採択、実施 1 年目の事業】

事業名	「地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト」	ヒアリング 実施日	平成 29 年 10 月 13 日
実施者	実施団体	特定非営利活動法人 メディカルケア協会	
	区担当課	健康部健康づくり課	
事業目的	<p>「食べる力」推進プロジェクトの普及啓発活動に、区民を中心とした多様な主体が担い手「ごっくんリーダー」として、能動的・継続的に参画することで、自分自身を含む高齢者の「食べる力の維持向上」、「高リスク者の早期発見、適切な支援」につなげていけるよう、基盤と支援体制を構築することを目的とする。</p> <p>初年度である 29 年度は、基盤づくりの一步として、普及啓発ツールの開発及び、活動趣旨を理解してもらい、協力を得るための絆づくりや事前準備(モデル地域選定への情報の収集、協力者を探すなど)を目的とする。</p>		
事業概要	<p>I. 普及啓発推進プロジェクトチームの編成 プロジェクト会議:3 ヶ月ごとに年 4 回開催 メンバー:区民、連携先、区担当課、当法人等で構成</p> <p>II. 普及啓発のシンボルツールとなる体操づくりや既存の地域活動を通して、地域キーパーソン等区民と顔の見える関係づくりを行い、事業を進めていくために必要な趣旨の理解や賛同・支援を得られるような事前準備と啓発活動を行う。</p> <p>1) 一般区民への普及啓発</p> <p>①啓発イベントの開催(2回) 内容:食べる力(摂食嚥下機能の維持向上、低栄養、社会参加の推進等も意識)に関する健康教育、嚥下体操など</p> <p>②制作物:啓発活動の案内リーフレットの作成 (活動の趣旨、ごっくんリーダー募集呼び掛け、イベント開催のお知らせ等)</p> <p>2) 普及啓発活動を推進する、地域の担い手「ごっくんリーダー及びごっくんコアリーダー」の育成(既存の地域団体や活動との連携による普及啓発を含む)。</p> <p>①仕組みづくり(モデル地域選定のための情報収集、地域関係者・区等との調整、地域のキーパーソンを探す、地域へのアプローチ方法の検討など)</p> <p>②担い手「ごっくんリーダー」集め</p> <p>③「ごっくんコアリーダーの集い」(仮称)の開催(1回) 内容:担い手同士の交流、知識や技術習得等を目的とした学習会</p> <p>④活躍の場づくり(啓発イベントへの協力、体操 DVD 作成への協力等)</p> <p>3) 普及啓発活動を推進するためのツールの開発と活用</p> <p>①楽しみながら行える啓発用体操の開発(区民も含めた体操開発会議の開催)</p> <p>②啓発用体操の DVD の作成 500 部</p> <p>③啓発用体操の説明リーフレットの作成 500 部</p> <p>④啓発用体操を活用した普及啓発</p>		

<p>目 標 ・ 成 果</p>	<p>[事業目標]</p> <p>(1)区民への普及啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> * 啓発活動の案内 配布箇所 50 か所 * 啓発イベントの開催(2回)(参加者1回20名程度) * 参加者が「食べる力」の維持向上の大切さを知ること <p>(食べる力の低下に気づいたら相談する重要性、ごっくんチェック表、区の相談窓口等)</p> <p>(2)普及啓発活動を推進する、地域の担い手「ごっくんリーダー及びごっくんコアリーダー」の育成</p> <p>ごっくんリーダーとは、食べる力の重要性を認識し、周囲の人にも伝えていく人。区民など。具体的には啓発活動等に参加して食べる力を正しく理解し、自らも気をつけたり、出来る範囲で周囲の人にも伝え、食べる力の衰えに気づくことを支援する。また、ごっくんリーダーの活動の中心的な役割を担う者をごっくんコアリーダーとして位置づけ、10名程度育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「ごっくんコアリーダーの集い」(仮称)の開催(1回) <p>(3)普及啓発活動を推進するためのツールの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> * 啓発用体操の開発 * 啓発用体操DVDの作成 500部 * 啓発用体操の説明リーフレットの作成 500部 <p>[事業成果]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 活動趣旨を理解してもらい、協力を得るための活動、事前準備(モデル地域選定への情報収集、地域キーパーソンを探す等)をしっかりと行うことで、2年目のモデル地域での活動体制を作る。 2. 普及啓発ツールの開発を区民とともに行うことで、区民が自らのものとして親しみをもって愛し、ニーズに合った体操を作ることができる。 3. ツール開発に関わってもらうことで、協力者・賛同者、ごっくんコアリーダーなど今後の活動を主体的に進めていく人たちを集めることができる。 4. 集いの開催でごっくんコアリーダー同士の交流が生まれ、担い手としての基礎知識の習得、心構えが共有できる
----------------------------------	---

上記記載内容は、事前確認書をもとに作成

6 協働事業の評価結果

● 総合評価

C

- A 協働事業として適切で優れていると評価できる。
- B 協働事業として適切であるが、一部改善することでさらなる発展が期待できる。
- C 協働事業として概ね適切であるが、一部改善の必要がある。
- D 協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。
- E 協働事業としては不十分であった。

・総合評価コメント

高齢化が進む中、摂食嚥下機能の維持・向上は重要なテーマであり、日常的な取り組みが大切であることを区民に向けて普及啓発することが喫緊の課題となっています。本事業は、そうした課題を的確に捉えており、その成果が期待される事業となっています。

適切な話し合いのもと、コミュニケーションを密に図りながら事業実施されており、事業対象の高齢者が集う既存のサロンや会合に出張する戦略も成功していると考えます。こうした地域に根差した地道な活動に加えて、団体の人脈を活かして専門家を巻き込む等、ノウハウを活かしながら事業が実施されています。

一方で、本事業は地域の核となる人材・リーダーを育成し、高リスク者の発見や周囲の気づきにつながる知識、予防策等を普及啓発していくことを目指しています。また、楽しく取り組むことができるツール開発も目指していますので、こうしたことを踏まえ、リーダーの活動方法や制作したDVDの活用について、更に一步踏み込んだ、より具体的な目標設定がなされることを期待しています。体操の継続状況や当事者による口腔機能の向上の確認等、アウトカム指標の設定も検討してください。

また、進捗状況に遅延が見られますので、計画の進捗管理、目標や指標の達成状況を確認しながら事業実施していくことが重要と考えます。

今後に向けては、モデル地域から全区的な取り組みをどのように展開していくかという検討や、3年目に実施予定としているHPの構築に向けてウェブサイトを活用した広報に力を入れていく等、更なる検討を期待しています。

高齢者にとって嚥下障害の予防は重要な課題であり、その課題解決に向けた本事業は、他自治体のモデルともなりうる可能性を持った事業です。新宿区全域に広げていくことは非常に大変なことだと思いますが、双方が持つネットワークを駆使し、より多くの団体に参加を呼びかけ、一人でも多くの人、様々な層の人たちに活動を知ってもらうことで裾野が広がり、事業に発展性が見込めると考えます。本評価書やヒアリングでの質疑等を踏まえ、今後の改善を図ることで、更なる成果を発揮した事業となることを期待しています。

● 項目別評価

4 = 優れている 3 = 適切である 2 = 課題はあるがほぼ適切である

1 = 不十分であり改善が必要

協働事業評価項目		評価指標
計画	① 事業における区民ニーズや課題のとらえ方	4・ 3 ・2・1
	② 事業の成果目標の設定	4・3・ 2 ・1
	③ 協働の相手への期待とその成果	4・ 3 ・2・1
	④ 役割分担の決定方法	4・3・ 2 ・1
実施	⑤ 事業の進捗状況や事業に関する情報の共有	4・3・ 2 ・1
	⑥ 協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い	4・3・ 2 ・1
反省と改善	⑦ 改善すべき内容の把握	4・3・ 2 ・1

・評価コメント

	協働事業評価項目	評価点
	<p>① 事業における区民ニーズや課題のとらえ方</p> <p>今後ますます加速する社会の高齢化において、摂食嚥下機能の維持・向上は重要な課題です。生涯にわたって口から食べ、いつまでも健康な生活を送ることは多くの人達が願っていることだと考えます。しかし、摂食や嚥下に不自由を感じている高齢者は多く、日常的な口腔機能の維持向上が大切であることを区民に向けて普及啓発することが喫緊の課題となっています。</p> <p>そうした中、本事業は区民が自発的に取り組み、日常生活で習慣化できるような活動を普及啓発することを目指しており、地域の核となる人材・リーダーの育成や、楽しく口腔機能の向上に取り組むことができるツールの開発を行うこととしています。課題を的確に捉えており、健康寿命延伸や介護予防等にもつながる社会的ニーズが高い事業であると言え、その効果が期待される事業となっています。</p>	<p>3</p>
<p>計画</p>	<p>② 事業の成果目標の設定</p> <p>成果目標として、リーダーの育成数や普及啓発イベントの開催、DVDの制作やその作成枚数等を設定しており、双方で協議し、明確な目標をたてて事業が実施されています。</p> <p>一方で、区民への普及啓発という点では、事業参加者へのアンケート等により、体操の継続状況、摂食機能に対する理解や意識の向上、当事者による口腔機能の向上の確認を行う等、アウトカム指標の設定が必要と考えます。</p> <p>また、本事業は地域の核となる人材「リーダー」を育成し、高リスク者の発見や周囲の気づきにつながる知識、予防策等を普及啓発していくことを目指しています。こうしたことを踏まえ、リーダーの活動方法さらには制作したDVDの活用について、更に一步踏み込んだ、より具体的な目標設定がなされることを期待しています。</p> <p>事業毎にその効果が図れるような指標の設定や参加者の意識変化を図るような指標の設定を検討してください。</p>	<p>2</p>
	<p>③ 協働の相手への期待とその成果</p> <p>実施1年目ということで、当初は思いや期待が異なる部分があったようですが、事業の方向性・対象・方法等の方針について時間をかけて協議を重ねた結果、共通認識に立って活動ができるようになったと評価します。</p> <p>また、これまでに摂食嚥下機能支援イベントを団体と区が共催で実施した実績があることから、区のネットワークは勿論のこと、団体のノウハウや地域団体・医療機関等とのつながりを活かした取り組みが期待できる事業となっています。3年間という期間になりますので、こうして培ったつながりやノウハウを活かすことができるのはこの事業の強みであると考えます。是非こうした基盤を活かすとともに、できるだけ多くの関係者に参加を呼びかける等、協働の相乗効果を十分に発揮して、効果的に事業実施していくことを期待しています。</p>	<p>3</p>

	<p style="text-align: right;">④ 役割分担の決定方法 2</p> <p>定期的な打ち合わせや電話等によりコミュニケーションが図られており、役割分担についても対等な立場で意見交換に努めていると考えます。事業の企画等について双方でよく検討している点や、団体の人脈を活かして専門家を交えた会議を設置する等、ノウハウを活かしながら事業実施されている点は評価できます。</p> <p>協働事業では役割分担は重要な要素であり、最も効果的な分野をお互いが担い、各々の強みを活かした分担とすることで、最大限に効果を発揮するものと考えます。</p> <p>過去にイベントを共催したことによる基盤も活用し、双方の役割や責任の範囲を常に確認しながら、より効果的に事業が実施されることを期待しています。</p>
実施	<p style="text-align: right;">⑤ 事業の進捗状況や事業に関する情報の共有 2</p> <p>プロジェクト会議の設置や打ち合わせを随時設ける等、密に連絡を取り合っ事業が実施されています。お互いの得意分野や不得意分野も話し合いを行う等、情報の共有に努めていると評価します。</p> <p>一方で、ごっくんリーダーの発掘や育成、区民への普及啓発状況等、具体的な事業の進捗が目標と比較してどのように進行しているか、把握しながら事業実施されているかという点では検討が必要と考えます。実施にあたっての必要経費や人員体制等も確認しながら、計画に沿って進捗管理していくことが重要です。</p> <p>「高齢者が健康な生活を送るための取り組みをする」という本事業の目標を絶えず確認し、話し合いを持ちながら、事業実施につなげていくことを期待しています。</p> <p style="text-align: right;">⑥ 協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い 2</p> <p>定期的な会議の実施に加えて、事業展開に合わせてタイムリーに会議体を持つ等、新たな状況判断にも対応できる体制がとられています。考え方や方向性は一致しており、情報の共有に努めていると考えます。</p> <p>一方で、計画に対しての実績の把握や成果目標の達成度の確認という点では、十分とは言えないと考えます。達成の見通しや、達成に向けた課題や問題点を整理し、次の活動へ繋げていくことが重要です。実施2年目を視野に入れた話し合いを含めて、本事業の目標である「区民に向けての普及啓発」という視点で、目標は適切か、さらにその目標に対しての達成度はどのようになっているか、意識しながら実施するように努めてください。</p>

反省と 改善	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> ⑦ 改善すべき内容の把握 2 </div> <p>課題の共有や解決に向けた話し合いを行い、柔軟な対応がとられています。事業全体の進捗管理や目標達成に向けた課題の把握と改善策の検討という点では課題があると考えます。団体の専門性が活かせるような体制がとられているか、区が担っている役割は適切なものとなっているか、互いの役割や体制についても検証しながら、課題解決に向けて十分に協議を行うことが重要です。</p> <p>今後に向けては、モデル地域から全区的な取り組みをどのように展開していくかという検討や、3年目に実施予定としているHPの構築に向けてウェブサイトを活用した広報に力を入れていく等、更なる検討を期待しています。</p> <p>こうした活動を日常生活で習慣化し、区内全域に定着させていくことは、相応の時間を要することだと思います。双方が持つネットワークを駆使し、より多くの団体に参加を呼びかけ、一人でも多くの人、様々な層の人たちにこの活動を知ってもらうことで、裾野が広がり、事業にも発展性が見込めると考えます。双方で話し合い、より良い方向を見出しながら事業実施していくことを期待しています。</p>
-------------------	---

【参考資料】

協働事業事前確認書（様式） P 1 5

協働事業自己点検シート（様式） P 1 6

協働事業相互検証シート（様式） P 1 9

ヒアリング時提出資料 P 2 1



協働事業提案制度による_____年度実施事業 事前確認書

作成日	年 月 日
-----	-------

事業名		
実施者	団体名	
	区担当課	
事業の目的		
事業の概要		
事業目標・ 想定される 事業成果		
事業の受益者		
協働により 期待される 効果		

※実施2年目の事業のみ記入

(昨年度の協働事業評価で指摘された課題への対応も含めて記入してください。)

1年実施して把握した課題・問題点	
2年目実施にあたっての改善点	

《協働事業自己点検シート》 1年目用

記入日	記入者	記入責任者
年 月	※どちらかをチェックしてください 団体 <input type="checkbox"/> 区担当課 <input type="checkbox"/>	氏 名： 連絡先：

事業名		
事業の実施者	団 体	
	区担当課	
事業の目的		
事業の概要		
実施期間	年 月から 年 月まで	

※想定される事業成果や受益者について事業実施過程で変更が生じた場合は、現時点欄に記入してください。

事業目標・ 想定される 事業の成果	
-------------------------	--

現時点⇒

--

想定される 事業の受益者	
-----------------	--

現時点⇒

--

* I・IIは、協働の取組みを5段階で評価してください。

5 =十分に達成された (80%以上)	4 =ほぼ達成された (60%~80%)
3 =課題があるものの概ね達成された (40%~60%)	
2 =ほとんど達成されなかった (20%~40%)	1 =まったく達成されなかった (20%未満)

I 協働事業の計画づくり

ここでは、事業を実施するための計画づくり・仕様づくりの段階での協働の取組みについて評価してください。

①計画づくりのプロセスで双方がどのように協力して取り組みましたか。

項 目		評 価				
Q1	率直な意見交換のもとに、対等な立場で計画づくりを進めましたか。 (対等)	5	4	3	2	1
Q2	お互いの自主的な発案を尊重しあって計画づくりを進めましたか。 (自主性尊重)	5	4	3	2	1
Q3	お互いが役割を自覚して、自立的な事業展開ができるように、計画づくりを進めましたか。 (自立化)	5	4	3	2	1
Q4	お互いの特性や立場の違いを理解して計画づくりを進めましたか。 (相互理解)	5	4	3	2	1
Q5	事業目的を相互に確認し明確にして、計画づくりを進めましたか。 (目的共有)	5	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。						

②協働事業の質・効果の向上に向けて、どのように計画を検討しましたか。

項 目		評 価				
Q6	お互いの特性を生かしつつ、地域ニーズや課題を的確にとらえた計画となりましたか。	5	4	3	2	1
Q7	協働で行う意義や必要性を相互で検討・確認した計画となりましたか。	5	4	3	2	1
Q8	費用に対する効果を相互に検討・確認した計画となりましたか。	5	4	3	2	1
Q9	役割分担や責任を相互に検討・確認した計画となりましたか。	5	4	3	2	1

Q10	協働で実現する目標を相互に検討・確認をした計画となりましたか。	5	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。						

II 協働事業の実施

ここでは、事業の実施段階での協働の取り組みについて評価してください。

①事業を進めていくプロセスで双方がどのように協力して取り組んでいますか。

項 目		評 価				
Q11	率直な意見交換のもとに、対等な立場で事業を進めていますか。 (対等)	5	4	3	2	1
Q12	お互いの特性を発揮して、持てる力を自主的・効果的に出し合いながら事業を進めていますか。 (自主性尊重)	5	4	3	2	1
Q13	お互いが役割を自覚し、過度に依存することなく事業を進めていますか。 (自立化)	5	4	3	2	1
Q14	お互いの特性や立場の違いを理解して、事業を進めていますか。 (相互理解)	5	4	3	2	1
Q15	事業の目的をお互いが理解し、共有しながら事業を進めていますか。 (目的共有)	5	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。						

②事業の質を高めるためにどのような取り組みを行っていますか。

項 目		評 価				
Q16	お互いの特性を発揮して、適切な解決策を見だし、課題を解決できていますか。	5	4	3	2	1
Q17	事業の進捗状況に応じて、必要な情報を共有・活用できていますか。	5	4	3	2	1
上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。						

《協働事業相互検証シート》 1年目用

記入日		年 月 日	
記入者	提案団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 団体名： ・ 記入責任者 氏 名： 連絡先： 	
	区担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部署名： ・ 記入責任者 氏 名： 連絡先： 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部署名： ・ 記入責任者 氏 名： 連絡先：

事業名		
事業の実施者	団 体	
	区担当課	
事業の目的		
事業の概要		
事業の受益者		

事業の計画づくり

(協働して事業計画(仕様)をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったことはどのようなことですか。また、認識の違いを改善するために、今後どのように取り組んでいきますか。)

【共有できたこと】

【認識に違いがあったこと】

【改善に向けた取組み】

事業実施

(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったことはどのようなことですか。また、認識の違いを改善するために、今後どのように取り組んでいきますか。)

【共有できたこと】

【認識に違いがあったこと】

【改善に向けた取組み】

●自由意見

地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクト

(9月時点進捗状況)

I. 普及啓発推進プロジェクトチームの編成

1 食べる力推進プロジェクト検討会議

委員：里宇明元（慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室教授）

（新宿区摂食嚥下機能支援検討会委員長）

藤本進（フジモト新宿クリニック院長）

奈良和子（新宿区スポーツ推進委員協議会推進委員）

中村廣子（榎町町会連合会会長）

1) 第1回会議 7月31日(月)19:00～21:30（於：区役所第二分庁舎分館1階会議室）

内容：①新宿区食べる力推進プロジェクトについて

（目的、方策、成果、スケジュール等の共有）

②啓発活動の進め方

（地域のキーパーソン・リーダー・コアリーダーを探す、具体的な連携先、声掛けルートの探索、啓発イベント等）

③啓発用体操のコンセプトと普及方法、必要な人材、連携等

④その他

（地域課題・ニーズの情報共有）

2) 会議時以外でも随時、専門分野において個別に助言を頂き、取組みに反映する

2 食べる力推進プロジェクト・体操開発チーム

役割：歌詞、振り付け、構成等に医学的視点をきちんと取り入れた体操づくりのためのワーキングチーム。専門的な立場から制作に携わる。

委員：藤谷順子(国立国際医療センター病院リハビリテーション科医長) (リハビリテーション科医師)

蛭名勝之（エビナ歯科医院院長）（歯科医師）

三浦弘美（みうら歯科クリニック院長）（歯科医師）

石澤朋子（慶應義塾大学医学部リハビリテーション科）（言語聴覚士）

市村清美（地域活動歯科衛生士）

奈良和子（新宿区スポーツ推進委員協議会推進委員）

1) 第1回会議 8月28日(月)19:00～21:30（於：区役所第二分庁舎分館会議室）

内容：①新宿区食べる力推進プロジェクト及びオリジナル体操の開発について

（目的、方策、成果、スケジュール、体操コンセプト、対象者、普及方法等の共有）

- ②「食べる力支援」という視点の楽曲づくり：曲のアレンジ
(イメージ曲の選定、構成、リズム、テンポ、音域等の検討)
 - ③「食べる力支援」という視点の楽曲づくり：歌詞
(口の機能を高める歌詞の検討と選定、新宿区らしさ、の検討)
- 2) 会議時以外でも随時、専門分野において個別に助言を頂き、取組みに反映する

II. 普及啓発のシンボルツールとなる体操づくりや既存の地域活動を通して、区民との関係づくりと啓発活動を行う

1 区民への普及啓発

1) 啓発イベントの開催

- 内容：①健康教育、嚥下体操、継続的フォロー、食べる力支援に関わる専門職による食事中的アセスメント（早期発見）、ごっくんチェック表や相談窓口の紹介等
- ②地域の高齢者利用施設でのイベントを通じた啓発活動の実施
11月19日（日）西早稲田地域交流館まつりにて、実施予定
 - ③平成29年1月～3月 イベントを実施予定

2 普及啓発活動を推進する、地域の担い手（ごっくんリーダー）の育成

1) 仕組みづくり及び担い手「ごっくんリーダー」の募集

- ①地域の情報収集、地域関係者・区等との調整、地域のキーパーソンとの連携推進中
- ②既存の地域活動団体や活動（食事サービスの会や高齢者サロン等対象者となる、地域の後期高齢者が定期的に多く集まる場）との連携による啓発活動の実施
- ③啓発活動を行いながら、リーダーへの声掛け、コアリーダー探しを継続。啓発活動参加者は専門職を含め全員リーダーになっていただく。コアリーダーは食事サービスの会、高齢者サロン等の運営ボランティアへの声掛けを重点的に実施し、獲得推進中

【食事サービスの会】

8月4日(金)グループゆう（於：西戸山生涯学習館）：利用者27名＋運営ボランティア8名

8月28日(月)グループあみ（於：大久保地域センター）：利用者26名＋運営ボランティア8名

10月5日（木）グループすみれ（於：戸山シニア活動館）：利用者25～30名予定

10月7日（日）グループふれあい（於：西早稲田地域交流館）：利用者50名予定

【高齢者サロン】

9月10日（日）ほっとサロンえのき（於：榎町地域センター）：利用者19名＋運営ボランティア12名

10月6日（土）散歩みち（於：区営戸山1丁目アパート集会場）：利用者26名
予定

【老人クラブ】

10月11日（水）大久保2丁目老人クラブ百々寿会（於：電設会館）：参加者40名
予定

【日赤奉仕団】

榎町日赤奉仕団との連携推進中

（9月14日 分団長定例会にて講演、呼び掛けに賛同。連携して啓発イベントを計
画中）

3 普及啓発活動を推進するためのツールの開発

1) 楽しみながら行える啓発用体操の開発

- ①体操開発チームを編成、第1回会議内容を受けて
- ②地域や対象者（後期高齢者等）からの意見収集中（啓発活動時や連携活動団体等
へのヒヤリング等）
- ③食に関わる専門職（体操開発チーム以外）からの意見収集中

2) 音楽系専門家との連携による楽曲提供が決まり、連携先と楽曲内容の検討中

- ①連携先：東京音楽大学作曲指揮専攻「映画・放送音楽コース」（小六禮次教授）
の協力により、選抜学生及び卒業生による楽曲提供

2017年度事業スケジュール

実施事業		2016年	4～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
普及啓発推進プロジェクト会議	委員の選定	委員依頼	7/31(月)19時～21時半 第一回プロジェクト推進会議	第二回、第三回 予定	第四回 予定	
(1) 一般区民への普及啓発事業	食事サービスの会、高齢者サロン、高齢者施設で啓発イベント試行	モデル地域選定のための情報収集 地域関係者・区等との調整 地域キーパーソンを採す 啓発活動の案内	モデル候補等地域関係者、キーパーソン等との連携強化 ごっこんリーダーへの声掛け コアリーダー探し 啓発イベントの実施	ごっこんリーダーの啓発活動への参加 体操ヒヤリングの会への参加	ごっこんコアリーダーの参加 活動への参加 体操ヒヤリングの会への参加	ごっこんコアリーダー集い(学習会) 検証
(2) 地域の普及啓発活動を推進する担い手(ごっこんリーダー、ごっこんコアリーダー)の創設と育成事業	3/2(木)14時～16時 食事サービスの会協議会にて啓発講演、活動紹介、連携の呼び掛け	地域行事、地域活動等への参加により、地域特性把握、絆づくり、地域へのアプローチ方法を検討	モデル候補等地域関係者、キーパーソン等との連携 ごっこんリーダー・コアリーダーへの声掛け	ごっこんリーダーの啓発活動への参加 体操ヒヤリングの会への参加	ごっこんリーダーの啓発活動への参加 体操ヒヤリングの会への参加	ごっこんコアリーダー集い(学習会) 検証
(3) 楽しく口腔機能を向上させるツール(歌って踊る嚙下体操)の開発事業	2/22(水)19時～21時 摂食嚙下機能支援検討会研修会にて活動紹介 医療・介護関係者への連携・支援呼びかけ	体操開発チーム編成 連携先、支援者呼び掛け	8/28(月)19時～21時半 第一回体操開発会議 嚙下体操の開発(作詞、作曲、編曲、振り付け、演奏等) 支援者との連携 楽曲づくり	第二回 体操開発会議 楽曲と振り付けの合体 開発した体操の住民等へのヒアリングの場(2回)	お披露目 検証	DVD制作開始 歌詞付き説明リーフレットの制作開始 完成次第、本事業への協力依頼や啓発活動に活用

食べる機能支援活動結果表()で啓発活動実施

留意事項「原則挙手で割合算出でも可」						
会食会等 参加者	会場:		参加人数	名(内男性 名)	月 日	事後対応法 (継続対応内容)
	項目		理解できた	理解できなかった	呼び掛けに対して上がった声	
	食べる力を維持向上するためのお話は理解できましたか					
	基本 チ ェ ッ ク 事 項	<input type="checkbox"/> 半年前に比べて硬いものが食べにくくなりましたか?	該当者数	名		
		<input type="checkbox"/> お茶や汁物等でむせることがありますか?	該当者数	名		
		<input type="checkbox"/> 口の渇きが気になりますか?	該当者数	名		
	食べる幸せいつまでもカレンダーのことは理解できましたか?		理解できた	やや理解できた	難しかった	
	家で体操(カレンダー)をやりたいですか?		家でやりたい	家でやりたくない		
	えんげちゃん体操は楽しかったですか?		はい	いいえ		
	えんげちゃん体操を続けたいですか?		はい	いいえ		
今日のメディカルケア協会活動について満足しましたか?		はい	いいえ			
その他ご意見:特に質問があった場合に記入。(回答も)						

留意事項:ヒヤリングで可						
会食会等 運営ボラン ティア	運営ボランティア人数	名	当日参加者人数		名	
	基本チェック事項、食べる幸せいつまでもカレンダーを楽しく感じることができましたか			楽しい	少し楽しい	楽しくない
	えんげちゃん体操は楽しかったですか?		はい	いいえ	どちらともいえない	
	えんげちゃん体操を続けたいですか?		はい	いいえ	どちらともいえない	
	今日のメディカルケア協会活動について満足しましたか?		はい	いいえ	どちらともいえない	
	その他ご意見:					
ご提案:(今後の活動など)						

留意事項:個別に発生予見等したら、確実に実施する。		
啓発活動講師記 入	参加者のうち予防強化の必要性を感じた人数	名
	医師や相談窓口への相談の必要性を感じた人数	名
	実際に関係機関へ紹介した人数(新宿区発行の案内、パンフ等の手渡し、もしくは「在宅医療相談窓口電話:(03-5312-9925)」を教えた人数)	名
	特記事項:気がついたことを記入	
NPO法人メディカルケア協会		

平成29年度 新宿区協働事業評価報告書（実施1年目）

平成30年1月発行

印刷物作成番号

2017-16-2601

編集・発行 新宿区地域振興部地域コミュニティ課管理係
東京都新宿区歌舞伎町一丁目4番1号
電話 03-5273-3872

この冊子は、森林資源の保護とリサイクルの促進のため、
古紙を利用した再生紙を使用しています。